

西国第十七番 補陀洛山

御本尊／十一面觀世音菩薩 開基／空也上人

真言宗智山派 六波羅蜜寺

ひとたびも

山主 川崎純性

「ひとたびも 南無阿弥陀仏
という人の 蓮の上へのぼら
ぬはなし」

これは六波羅蜜寺開祖空也
上人の残された御歌です。
一度でもお念仏を唱えれば
極楽浄土にわたることが出来
ます。現世においても安樂が
得られるということですよ。

空也上人は平安時代中期、
今から1070年ほど前に京
の都に蔓延した疫病の退散を

村上天皇の勅命をうけ、一身
をなげうって病に苦しむ民衆
を助けに市中を巡られました。

梅干しと結び昆布の入った
皇服茶と呼ばれる薬湯を作り、
当病平癒の御祈願を修され、
念仏を唱え民衆を励まされま
した。

また、市中の古い井戸を閉
じ、新しい井戸を多く掘られ
ました。安全な水の確保をさ
れました。そして火葬を勧め

衛生環境の改善をされました。

空也上人と弟子たちやそれ
を手伝う民衆の多大なる尽力
によって悪病を終息の兆しが
見えてまいりました。

喜ばれた村上天皇の勅命で
六波羅蜜寺の前身の西光寺が
建立されました。

のちに空也上人は疫病に打
ちひしがれた民衆の姿を見て
なんとか心の平安を取り戻す
ことが出来ないかと街に出ら
れて念仏を勧められます。当
時の民衆にとってみれば念仏
を唱えることは奇異なこと
であったかもしれません。

しかし、空也上人は疫病退
散の為に市中を巡られた功績
がありました。

少しづつではあったでしょ
うが、その輪はどんどん大き
くなってたくさんの方々がお
念仏をお唱えされていきまし
た。そこで上人は御仏のお教
えをやさしく説いていかれま
した。

このことは鎌倉時代に入っ
て多くの宗派が形づく大きな
一因になったとされます。

私の浅薄な知恵では計り知
れませんが、上人のお気持ち
を簡単に申しますと「頑張れ、
くじけるな、諦めるな。」では
ないかと考えます。

空也上人没後1050年の
今もその精神は脈々と伝えら
れています。

南無阿弥陀仏

